

東京理科大学との産学公連携の取組状況について

1 区内事業所アンケートの実施

(1) 調査対象数

区内全製造業を含む3,215企業(有効対象数)3,169企業

(2) 調査内容

事業所の概要(業種・従事者数・事業内容等)、現在の経営状況、東京理科大学との産学連携意向等

(3) 調査期間

平成23年5月下旬～6月中旬

(4) 有効回収数

374社(回収率11.8%)

(5) 結果の概要

- ・ 大学との産学連携の経験のある事業所は11.3%(41件)だが、関心のある事業所は44.5%(157件)と比較的多い。
- ・ 関心のある事業所にとって気がかりな点は、「やり方がわからない」(63.5%)、「大学とのルートがない」(56.9%)、「連携の費用が心配」(44.5%)などとなっている。
- ・ 東京理科大学との産学連携への期待として最も多いのは「技術等の相談指導」で52.3%を占め、以下、「研究や試験の依頼」(31.8%)、「共同研究」(28.5%)と続いている。

※産学連携・区内事業所アンケート調査結果 資料1

2 東京理科大学研究室アンケートの実施

(1) 調査対象数

東京理科大学全529研究室(有効対象数529研究室)

(2) 調査内容

研究室の概要(所属学部学科・キャンパス名)、希望する産学連携の内容、区内工場見学会に対する関心と意向、研究室見学会受け入れの可能性と条件等

(3) 調査期間

平成23年8月上旬～9月下旬

(4) 有効回収数

116研究室(回収率21.9%)

(5) 結果の概要

- ・ 希望する産学連携の内容は、「共同研究・委託研究」が71.0%と最も多く、以下、「技術相談・指導」(45.8%)、「試験機器・試作機の発注」(17.8%)、「インターンシップ」(10.3%)となっている。
- ・ 区内工場見学への興味については、「ある」(29.5%)と「ややある」(50.9%)を合わせると約8割となり、大半の研究室が興味を示している。
- ・ 研究室見学会の受け入れについては、「困難である」は14.0%に留まり、「歓迎したい」57.0%、「条件次第」が28.9%と、ほとんどの研究室が見学受け入れの可能性を有している。

※東京理科大学研究室アンケート調査結果 資料2

3 葛飾区産学公連携推進協議会の運営

(1) 設置時期

平成23年7月

(2) 委員構成

工業関係者10名、東京理科大学5名、東京商工会議所葛飾支部1名、金融機関2名、都・区職員3名(全21名)

(3) 開催状況

①第1回

ア 開催日

平成23年8月3日(水)

イ 議題

- ・ 葛飾区産学公連携事業の進め方について
- ・ 区内事業所ニーズ調査について(中間集計結果)
- ・ 東京理科大学研究室に対する概略調査について

②第2回

ア 開催日

平成23年12月20日(火)

イ 議題

- ・ 東京理科大学研究室に対するアンケート調査結果の概要
- ・ 今後の進め方等について

4 東京理科大学との産学公連携講演会・交流会の開催

(1)開催日

平成23年11月10日(木)

(2)会場

テクノプラザかつしか大ホール

(3)演題

『東京理科大学が葛飾キャンパスで実現したいこと』

(4)講師

東京理科大学理事長 塚本桓世氏

(5)参加者

80名

5 今後の予定(平成23年度)

(1)産学公連携講座(テクノロジーカフェ)

東京理科大学教員を講師に招き、参加者15名程度の少人数・参加型スタイルで実施する。内容は大学研究室シーズの発表、意見交換、技術相談などし、3講座の開催を予定している。

・第1回 平成24年2月21日(火)

・第2回 平成24年2月28日(火)

・第3回 平成24年3月6日(火)

(会場はいずれもテクノプラザかつしか)

(2)研究室見学会

東京理科大学基礎工学部を中心に3～5研究室(平成24年2月下旬)

(3)工場見学会

産学連携に関心の高い区内企業を3～5社(平成24年3月上旬)

(4)第3回葛飾区産学公連携推進協議会

平成23年度の活動実績報告及び平成24年度の活動内容を協議(平成24年3月中旬)

6 平成24年度以降の予定

(1)葛飾区産学公連携推進協議会の運営

① 主な協議事項

ア 各種助成制度の検討

イ 東京理科大学葛飾キャンパス内に設置されるインキュベーションルーム等に関すること

② 開催回数

年4～6回程度

(2) 東京理科大学と区内企業との交流イベント

① 内容

パネルディスカッション、分野別意見交換会

② 時期

平成24年8月(予定)

(3) 産学公連携拠点施設整備支援

東京理科大学葛飾キャンパス内に設置される「産学交流スペース」「インキュベーションルーム」等の整備にあたり、必要な備品等を購入する。

(4) 産学公連携専属コーディネーターの配置

① コーディネーターの役割

- ・区内企業に対する産学連携に関するPR・相談
- ・東京理科大学研究室に関する情報収集
- ・新製品・新技術開発プロジェクトなどの推進・支援

② 配置時期

平成24年4月

③ 配置人数

1名

(5) その他

工場見学会・研究室見学会を引き続き実施する。

産学連携・区内事業所アンケート調査結果

1 調査概要

○調査方法

郵送配布回収・郵送配布によるアンケート調査。

○調査対象業種

区内の全ての製造業・建設業(総合工事業のみ)・情報通信業。

○調査対象抽出方法：

NTTタウンページデータベースを利用し、同データベースの業種分類に基づいて対象を抽出。

○調査内容

事業所の概要(業種・従業者数・事業内容等)、現在の経営状況、東京理科大学との産学連携意向など。

○調査期間

平成23年5月下旬～6月中旬。

○調査票回収結果

以下の表のとおり。

調査対象数 (A)	調査対象外			有効対象数 (C=A-B)	有効回収数 (D)	有効回収率 (D/C*100)
	計 (B)	廃業等	移転等 宛先不明			
3,215	46	11	35	3,169	374	11.8%

2 全事業所調査結果

■調査対象事業所の概要

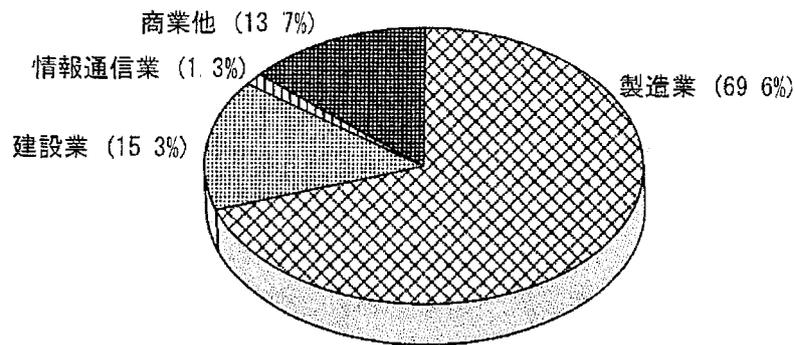
☆回答事業所の業種構成は、「製造業」(69.6%)、「建設業」(15.3%)、「商業他」(13.7%)、「情報通信業」(1.3%)となっている。

☆従業員規模は、「4～9人」(34.4%)が最も多く、「3人以下」(27.4%)、「10～19人」(17.9%)と続いており、一般的に小規模企業の多い傾向がうかがえる。

☆「単独事業所」(68.0%)が7割近くと最も多くなっている。次いで「本社・本店・本社工場」(24.3%)が全体の4分の1近くを占めている。

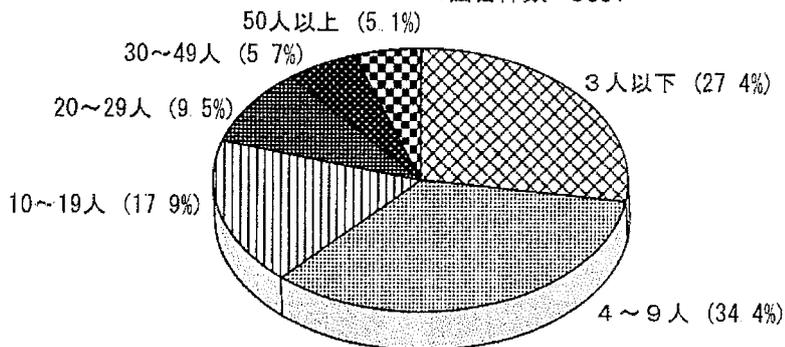
主な業種

<回答件数：372>



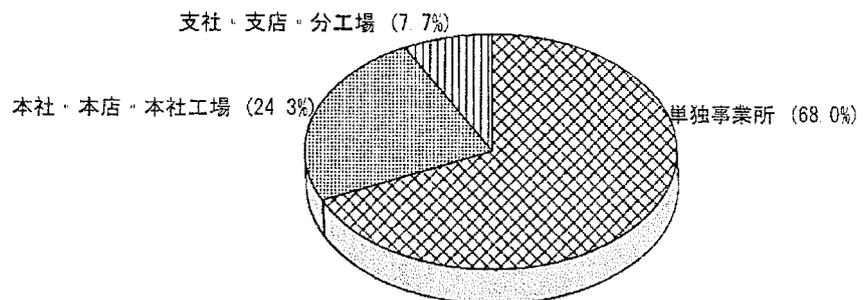
従業員規模

<回答件数：369>



単独事業所・本社・支社等の別

<回答件数：362>

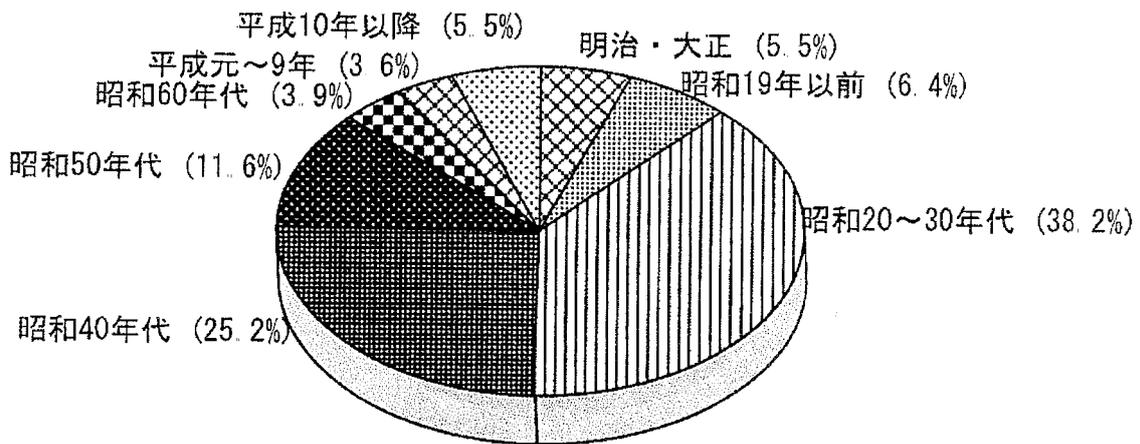


☆創業時期は、「昭和20～30年代」が38.2%、次いで「昭和40年代」が25.2%となっており、両者合わせて6割以上を占めている。戦前に創業された企業も1割以上あり、比較的業歴の長い企業が多い。

☆自社製品・OEM製品の有無については、「なし」(58.6%)が約6割、「あり」(41.4%)が約4割となっている。

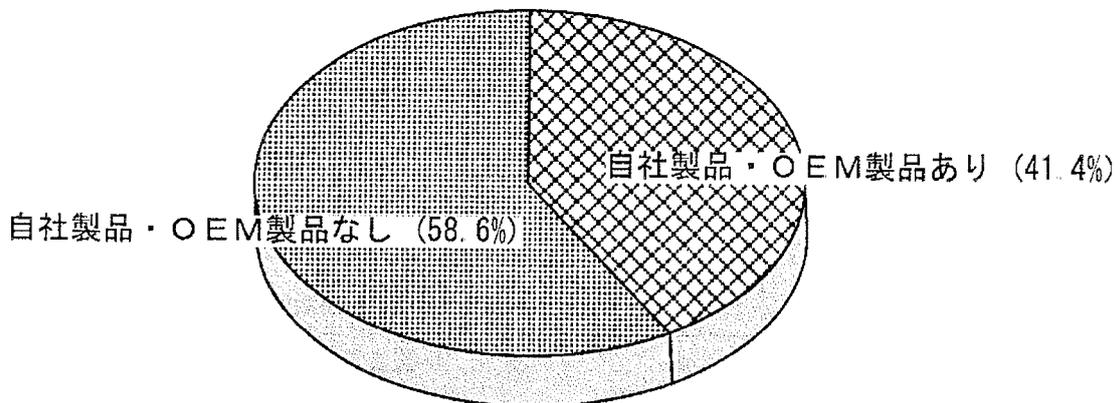
創業時期

<回答件数：361>



自社製品・OEM製品の有無

<回答件数：353>



■製造業の業種・生産場所

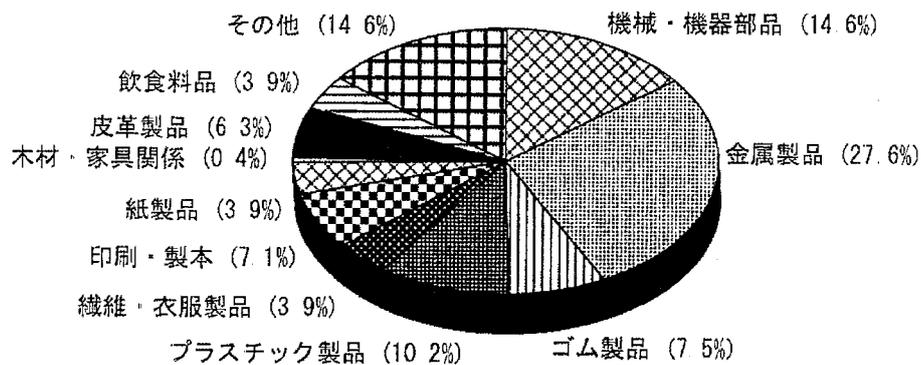
☆製造業事業所のより細かな業種構成は、「金属製品」(27.6%)が最も多く、次いで「機械・機器部品」(14.6%)、「その他」(14.6%)、「プラスチック製品」(10.2%)、「ゴム製品」(7.5%)などとなっている。

☆製造業の区内事業所の機能としては、「生産活動主体の工場」が76.2%と最も多い。

☆それ以外の、区内に主たる生産場所のない製造業の生産活動の場所は、「他の自社工場や子会社で」(56.8%)が6割近くを占めている。また、「ほとんど外注で」とするファブレス型の企業は、20.5%となっている。

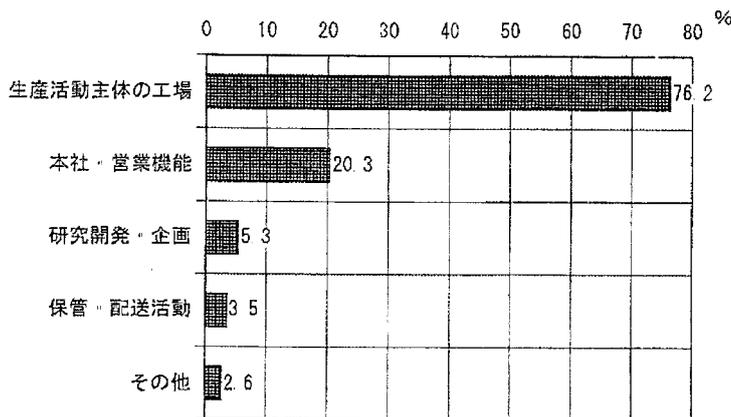
製造業の具体的な業種

<回答件数：254>

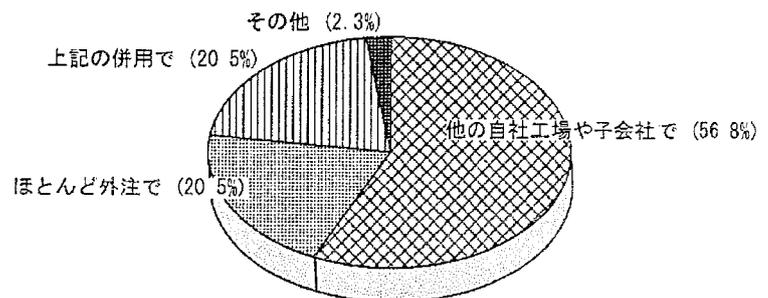


区内事業所の機能
(製造業の企業のみ)

<複数回答、母数：227>



主たる生産活動の場所
(区内に主たる生産場所のない製造業のみ)
<回答件数：44>



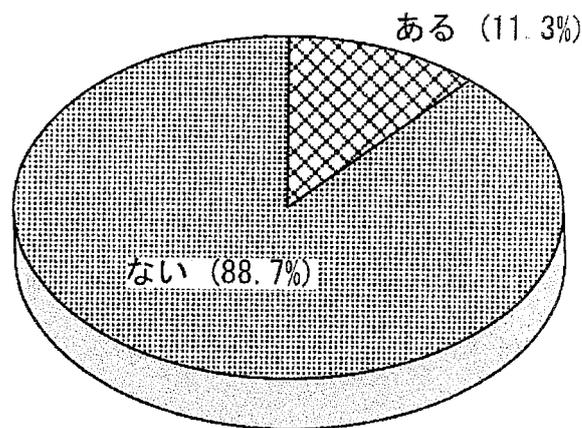
■大学との産学連携について

☆過去に大学との産学連携経験のある事業所（「ある」）は11.3%（41事業所）と限定されており、ない事業所は88.7%と9割近くとなっている。

☆経験のある事業所における大学との産学連携経験の内容は、「研究や試験の依頼」が39.5%、「共同研究」が34.2%となっており、この2者が他を圧して多くなっている。

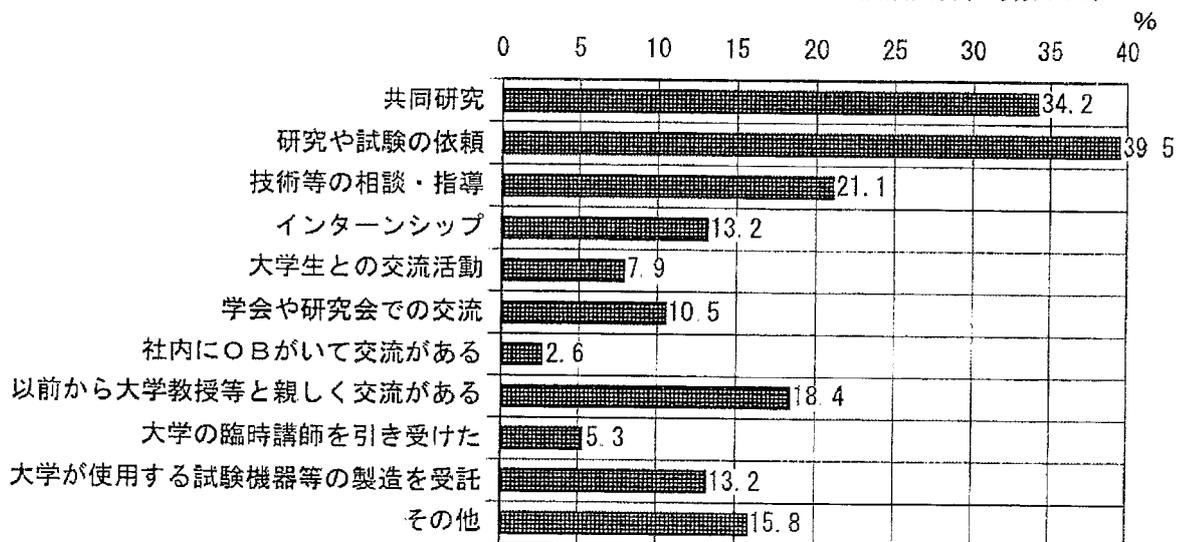
産学連携経験の有無

<回答件数：364>



産学連携経験の内容
(経験ありの企業のみ)

<複数回答、母数：38>

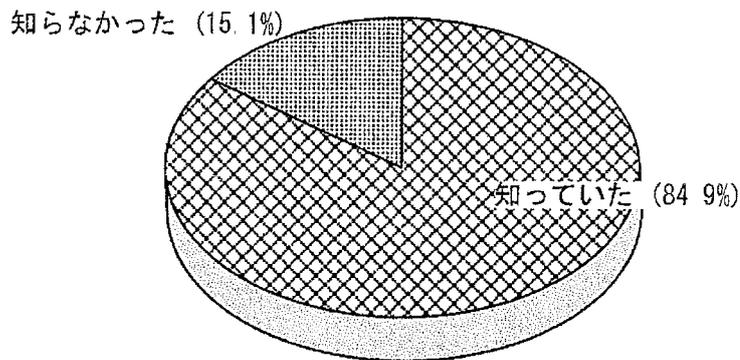


■東京理科大学との産学連携について

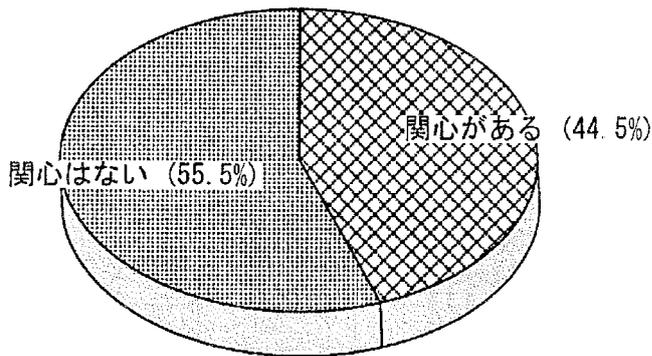
- ☆東京理科大学の葛飾区内への進出については、84.9%が「知っていた」としている。
- ☆東京理科大学との産学連携については、「関心がある」との回答が44.5% (実数で157) を占めている。
- ☆東京理科大学との産学連携に関心のある層にとっての気掛かりな点は、「やり方がわからない」が63.5%、「大学とのルートがない」が56.9%、「連携の費用が心配」が44.5%となっている。

東京理科大の区内進出に関する
情報の有無

<回答件数：371>

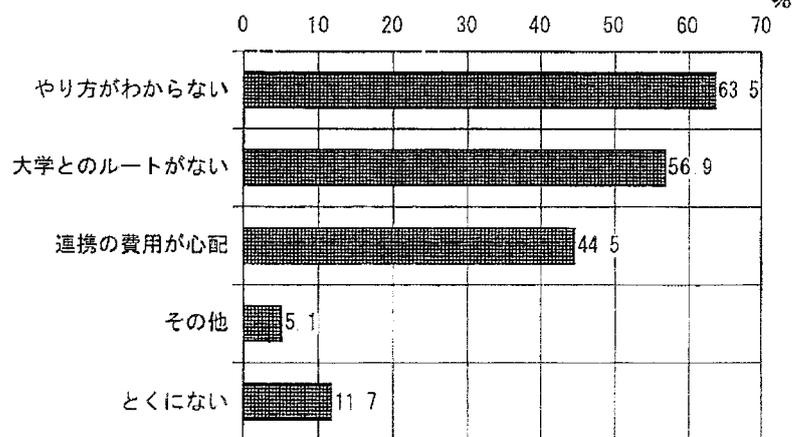


東京理科大学との産学連携への
関心の有無 <回答件数：353>



産学連携をやるにあたって気掛かりな点
(産学連携に関心のある企業のみ)

<複数回答、母数：137>

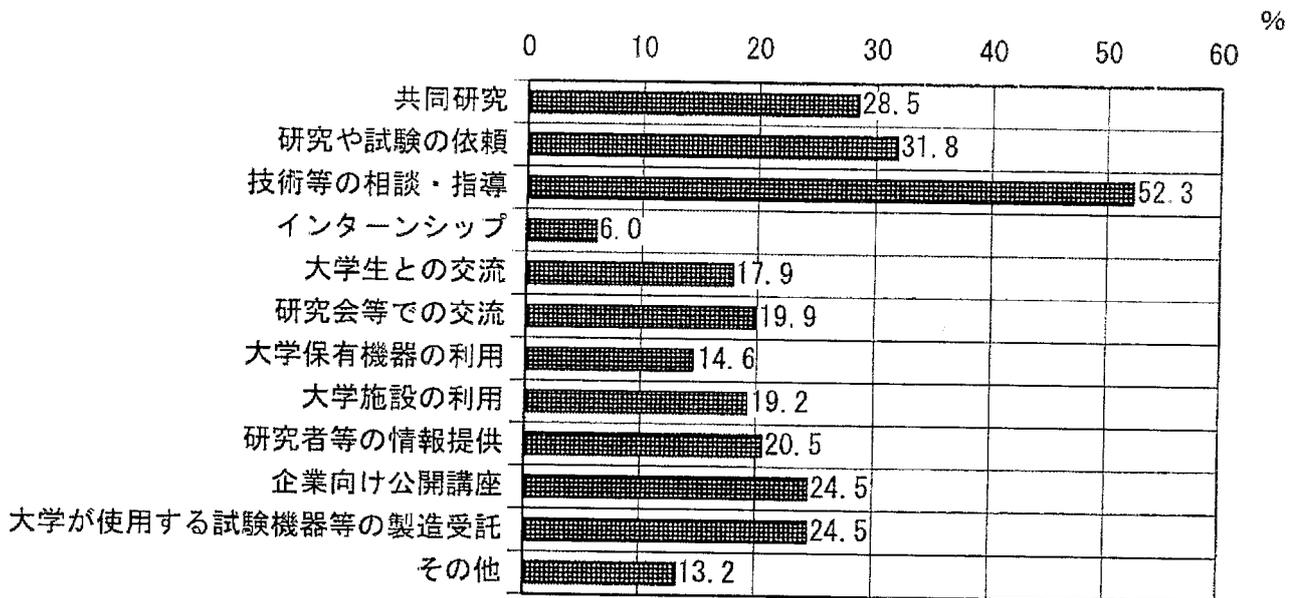


☆東京理科大学との産学連携に関心のある層が、何を期待しているかについては、「技術等の相談・指導」が52.3%と他を引き離して最も多く、「研究や試験の依頼」(31.8%)、「共同研究」(28.5%)などと続いている。

☆東京理科大学との産学連携に関心がない層は、その理由として「その必要がない」(61.4%)を最も多く挙げている。

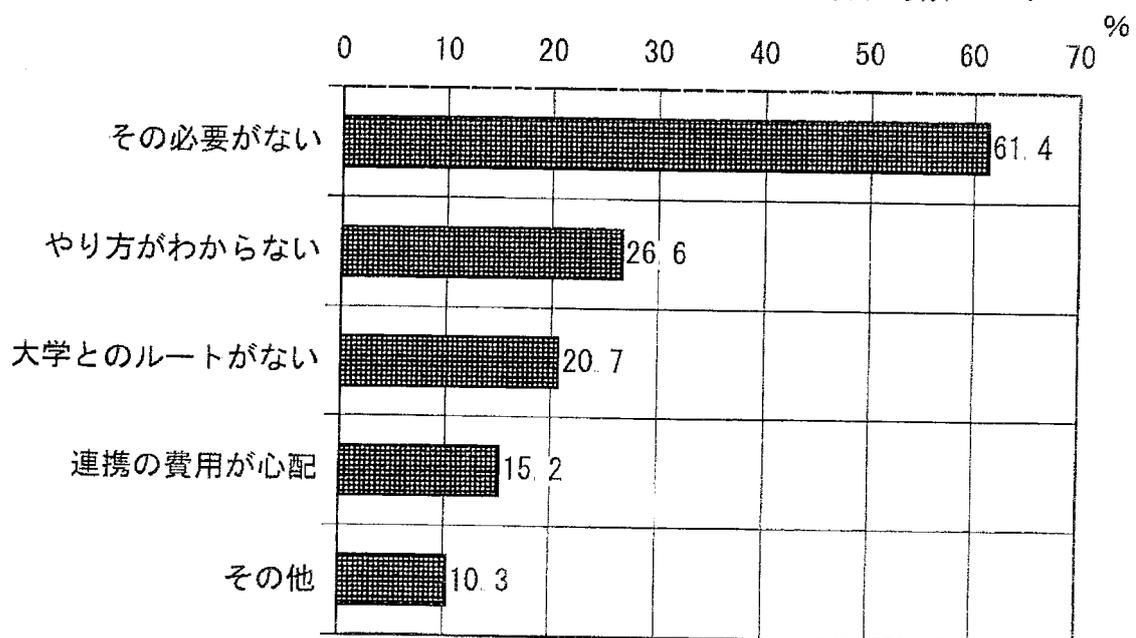
東京理科大学との連携に望むこと (産学連携に関心のある企業のみ)

<複数回答、母数：151>



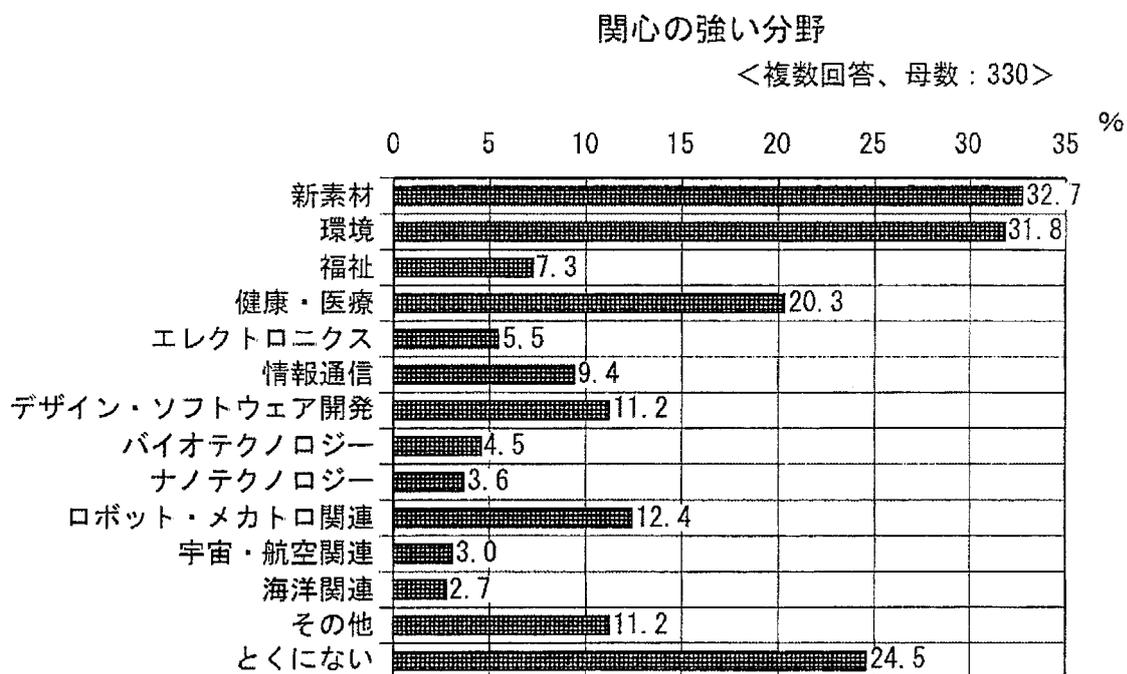
産学連携に関心のない理由 (産学連携に関心がない企業のみ)

<複数回答、母数：184>



■関心の強い分野

☆事業所にとって関心の強い分野は、「新素材」(32.7%)と「環境」(31.8%)が他より抜きん出て多くなっている。そのほかでは、「健康・医療」(20.3%)、「ロボット・メカトロ関連」(12.4%)、「デザイン・ソフトウェア開発」(11.2%)がやや目立って多くなっている。



3 産学連携に関心のある事業所の傾向

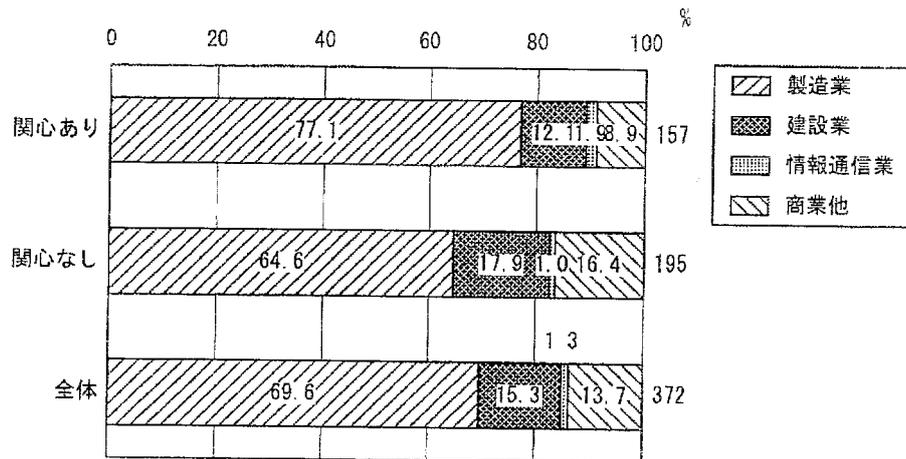
■事業所の概要

☆関心のある事業所の業種構成は、「製造業」が77.1%となっており、関心のない事業所よりも製造業割合が多くなっている。

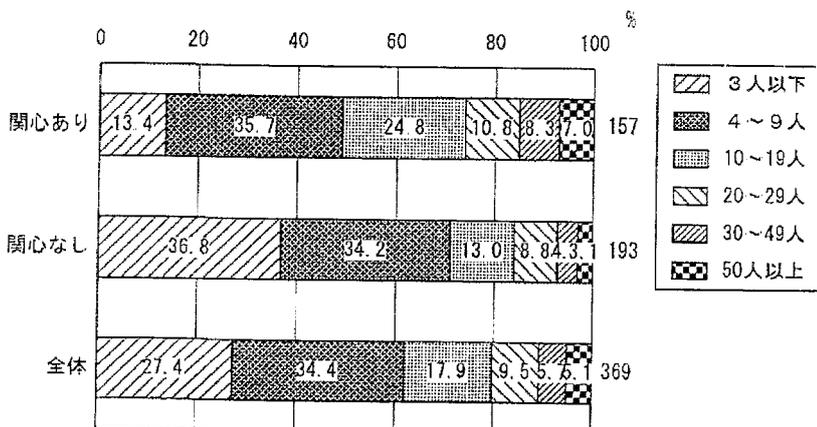
☆従業者規模では、「10～19人」が24.8%を占めるなど、関心のない事業所よりも比較的大規模の事業所が多い傾向がみられる。

☆単独事業所・本社・支社等の別では、「単独事業所」が56.3%にとどまる一方、「本社・本店・本社工場」が33.1%、「支社・支店・分工場」が10.6%となっており、関心のない事業所よりも本社や支社が多くなる傾向がうかがえる。

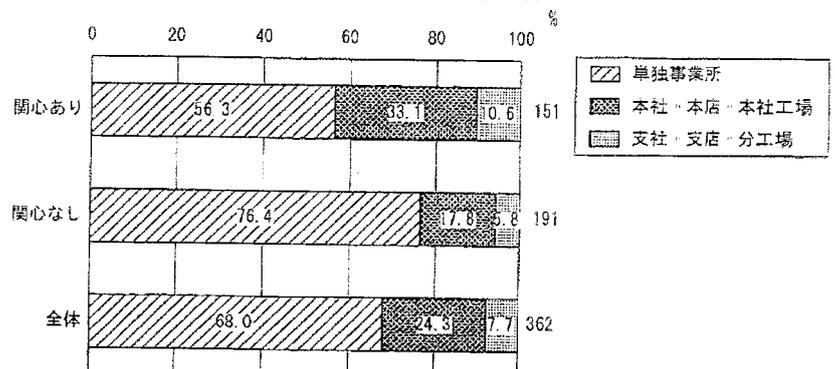
産学連携の関心の有無別*主な業種



産学連携の関心の有無別*従業者規模



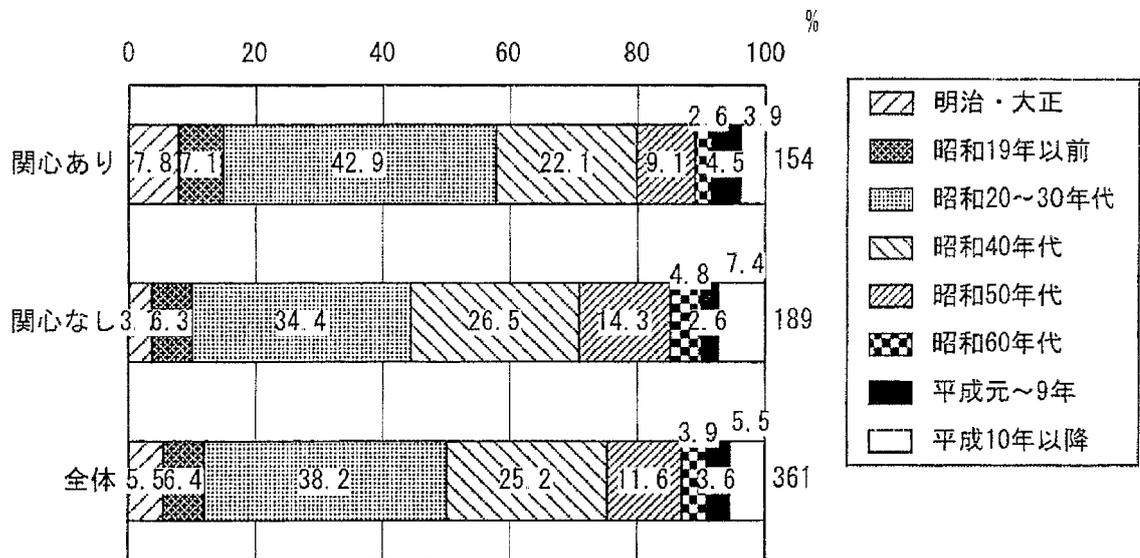
産学連携の関心の有無別*単独・本社・支社の別



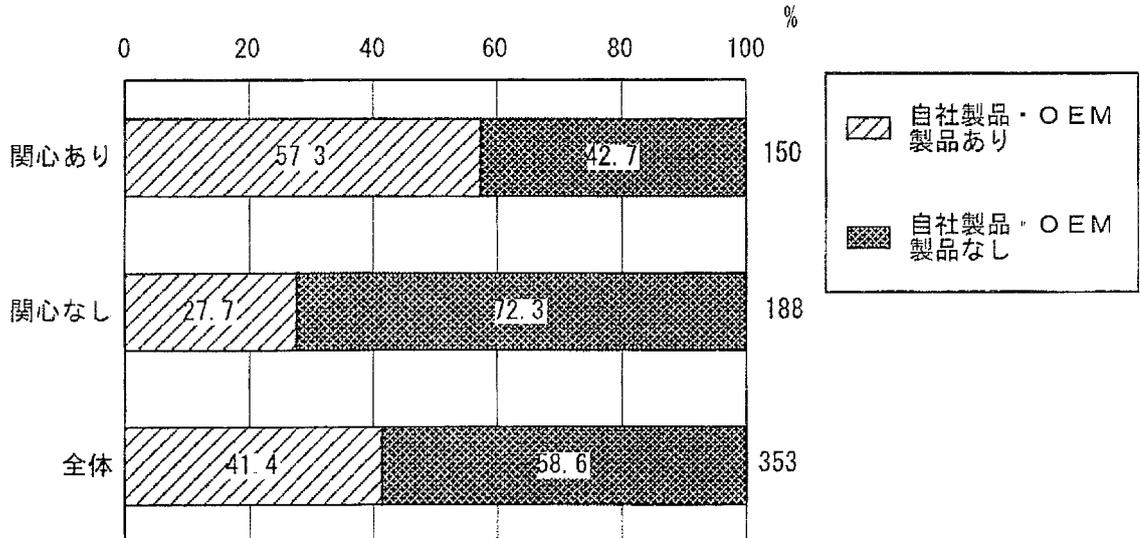
☆創業時期は、「昭和20～30年代」が42.9%と多いほか、戦前に創業した事業所も14.9%を占めるなど、全般的に関心のない事業所よりも業歴の長い事業所の割合がより多い傾向がみられる。

☆自社製品・OEM製品の有無については、「あり」が約6割(57.3%)、「なし」が約4割(42.7%)となっており、関心のない事業所の傾向とは逆転している。

産学連携の関心の有無別 * 創業時期



産学連携の関心の有無別 * 自社製品の有無



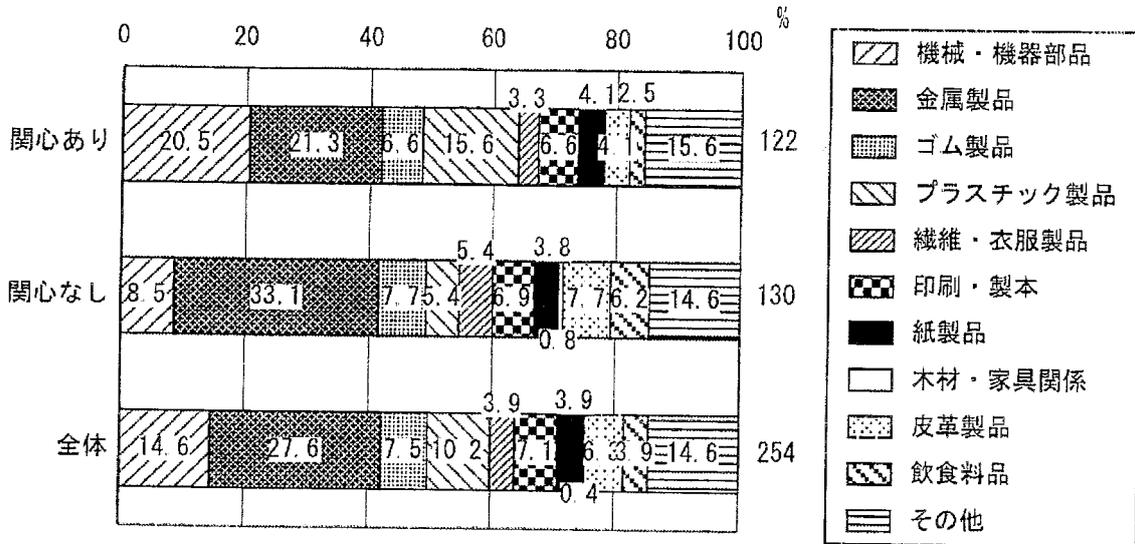
■製造業の業種・生産機能

☆製造業事業所のより細かな業種構成は、「金属製品」(21.3%)、「機械・機器部品」(20.5%)、「プラスチック製品」(15.6%)、「その他」(15.6%)、「ゴム製品」(6.6%)などとなっており、関心のない事業所に比べて機械・機器部品の割合が高いほか、それ程大きな違いはみられない。

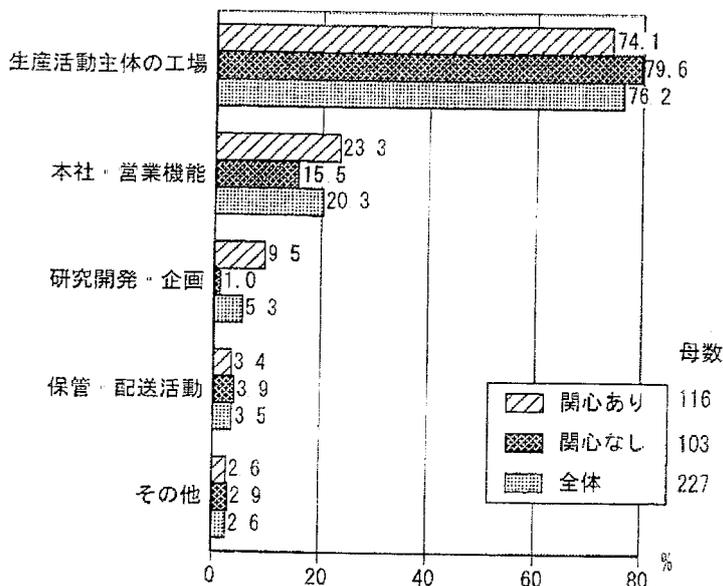
☆製造業の区内事業所の機能としては、「生産活動主体の工場」が74.1%と最も多い。「本社・営業機能」が23.3%、「研究開発・企画」が9.5%と、関心のない事業所よりもその割合が高くなっている。

☆区内に主たる生産場所のない製造業の生産活動の場所は、「他の自社工場や子会社で」(60.9%)が6割を占める一方、「ほとんど外注で」とするファブレス型の企業は、13.0%と少なく、関心のない事業所とやや異なる傾向がうかがえる。

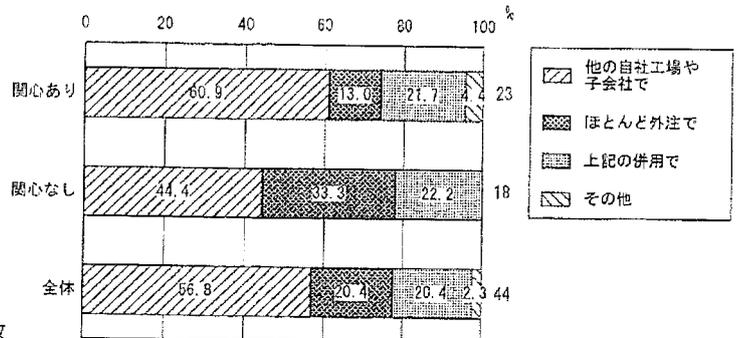
産学連携の関心の有無別 * 製造業の業種



産学連携の関心の有無別 * 区内事業所の機能<複数回答>

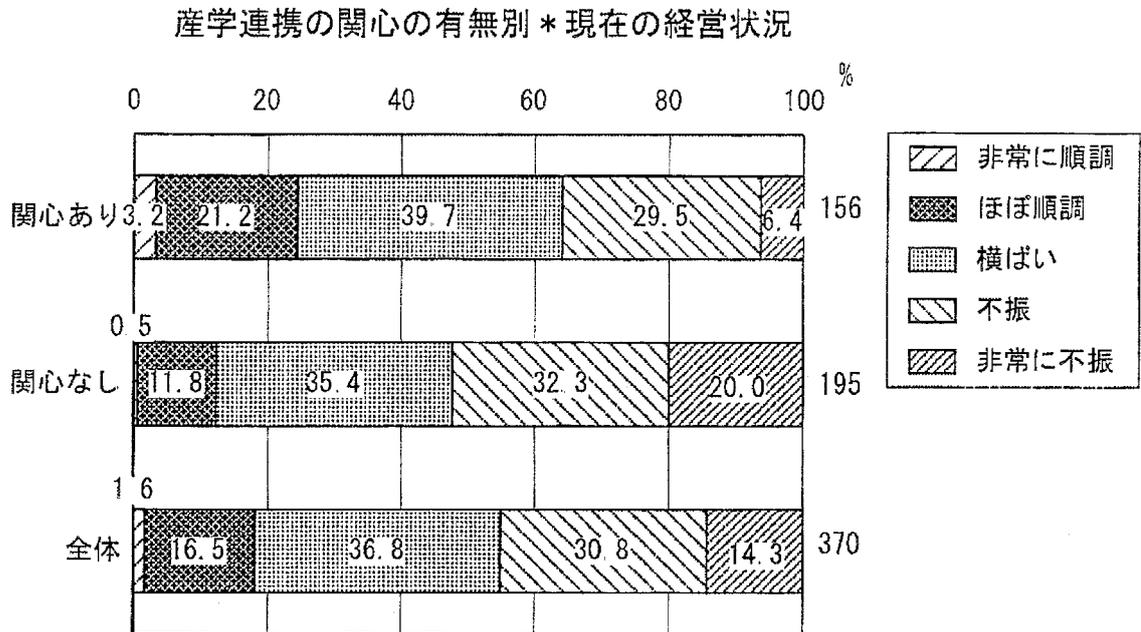


産学連携の関心の有無別 * 主たる生産活動の場所



■現在の経営状況

☆現在の経営の状況を見ると、関心ありの事業所の21.2%が「ほぼ順調」となっており、「非常に順調」(3.2%)を合わせると24.4%となる。ほぼ1/4の事業所が良好な経営状況にあることがうかがわれる。関心なしの事業所ではこの数値が12.3%と半分に留まり、かなりの差がみられる。

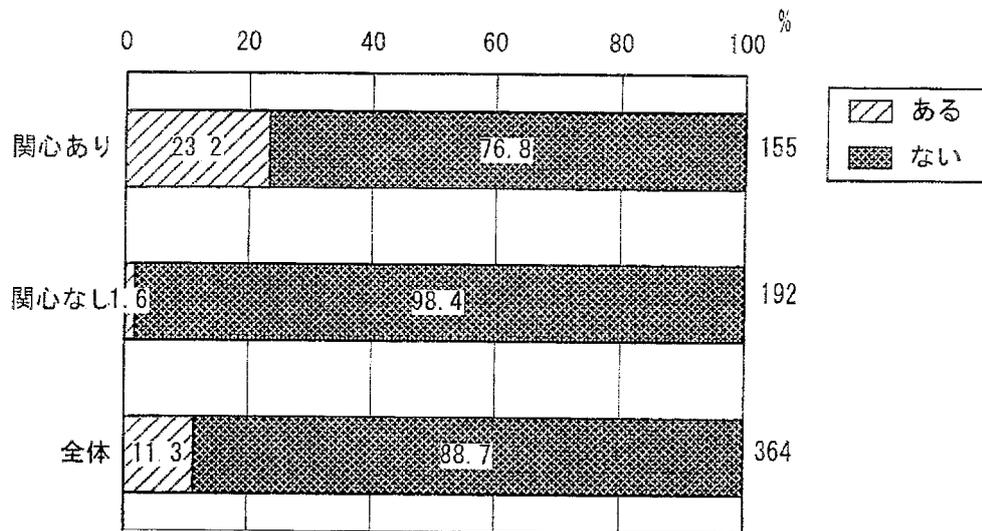


■大学との産学連携について

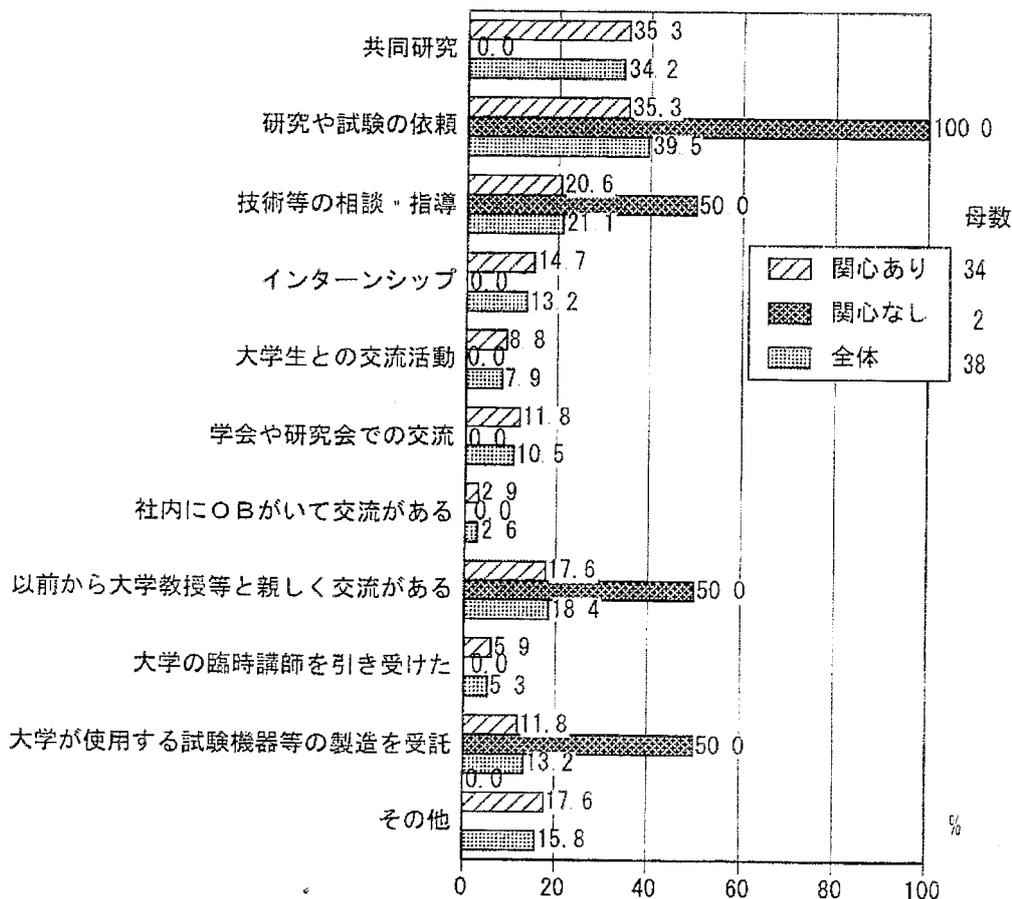
☆過去に大学との産学連携の経験のある事業所は、23.2%（36事業所）と4分の1近くを占めている。関心なしの事業所は1.6%（3事業所）に留まり、関心ありの事業所との差がかなりみられる。

☆大学との産学連携経験の内容では、「共同研究」と「研究や試験の依頼」がともに35.3%、「技術等の指導・相談」が20.6%、「以前から大学教授等と親しく交流がある」が17.6%、「インターンシップ」が14.7%などとなっている。

産学連携の関心の有無別 * 産学連携の経験



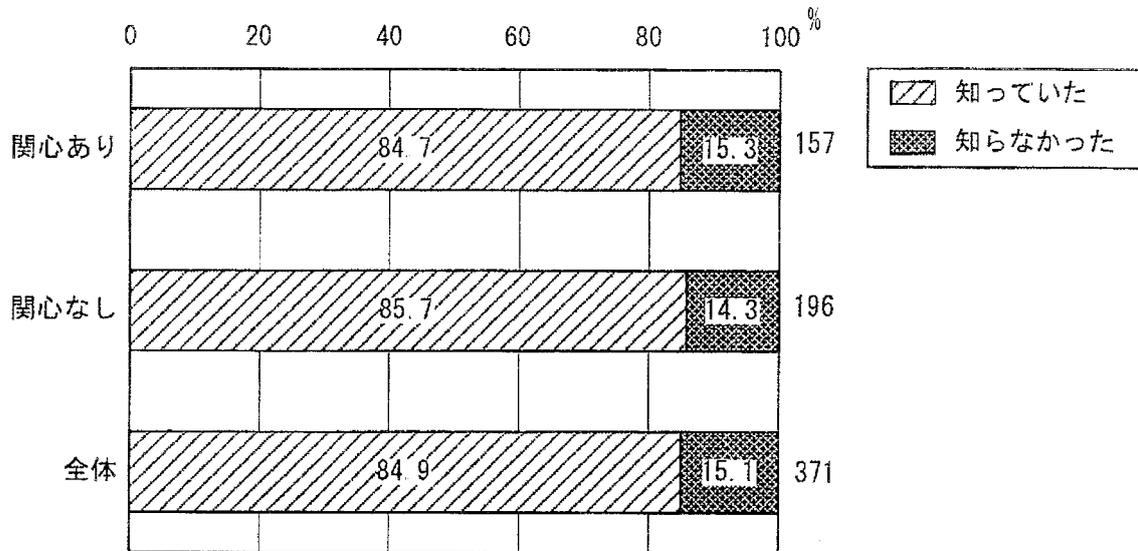
産学連携の関心の有無別 * 産学連携経験の内容 <複数回答>



■東京理科大学との産学連携について

☆東京理科大学の葛飾区内への進出については、84.7%が「知っていた」としており、関心の有無による違いはみられない。

産学連携の関心の有無別 * 東京理科大の区内進出情報

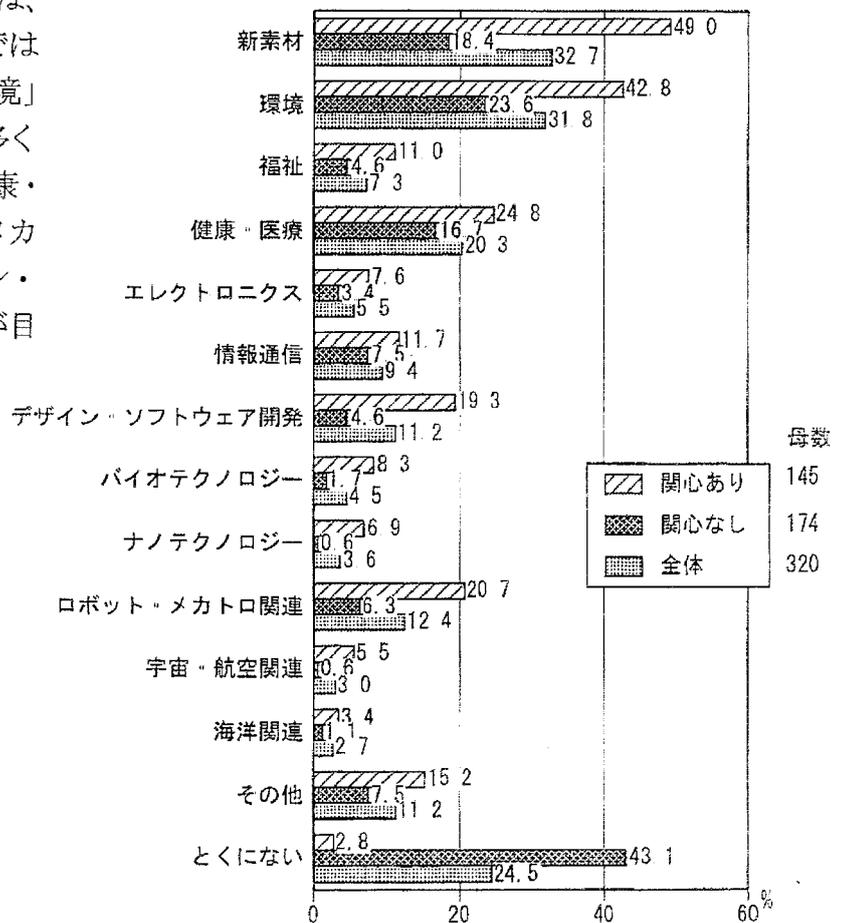


■関心の強い分野

☆事業所にとって関心の強い分野は、産学連携に関心ありの事業所では「新素材」(49.0%)と「環境」(42.8%)が他より抜きん出て多くなっている。そのほかでは、「健康・医療」(24.8%)、「ロボット・メカトロ関連」(20.7%)、「デザイン・ソフトウェア開発」(19.3%)が目立っている。

☆産学連携に関心なしの事業所と比較すると、数値はそれぞれ異なるものの全般的な傾向は大差ない。ただし、「とくにない」が前者は2.8%、後者は43.1%と大きく差がある点が特徴的である。

産学連携の関心の有無別 * 関心の強い分野<複数回答>



平成 23 年 5 月

事 業 所 各 位

葛飾区 地域振興部 商工振興課

大学との連携（産学連携）のためのアンケートのお願い

日頃から葛飾区の産業振興施策にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本区には、平成 25 年 4 月に東京理科大学が開設されます。（場所は JR 金町駅北西側・三菱製紙跡地）

東京理科大学には優れた科学知識・技術の蓄積と研究体制があり、区内の大多数を占める中小企業との交流や技術連携など、東京理科大学との産学連携の方向は、産業振興にとって重要なテーマとなっております。

大学との産学連携の例

- * 大学研究室との共同研究や委託研究
- * 大学が使用する試験機器等の受注
- * 空き店舗を利用した大学生の地域貢献活動
- * 大学生と企業との交流や就業体験 等々

そこでこのたび、区内の関連業種の事業所を対象に、大学との連携（産学連携）に関する現状や意向などをおうかがいし、今後の支援策に反映させるためにアンケート調査を実施することになりました。（調査業務は、(株)都市計画同人に委託して行います。）

ご多忙のところ誠に恐縮に存じますが、本調査にご協力のほどよろしくお願い申し上げます。また、産学連携に関心をお持ちの事業主様には、アンケート終了後、調査員がそちらにおうかがいしてヒアリングをさせて頂くこともございます。その節は、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

なお、ご回答いただいた内容については秘密を厳守し、統計的に処理を行い、この調査以外の目的には使用いたしません。

ご記入に当たって

1 アンケート票の返送方法

記入していただきましたアンケート票は、同封の返信用封筒に入れて、**6月13日までに** ご投函ください。（切手は不要です）

2 不明な点がございましたら、下記担当者までお問い合わせください。

【調査の趣旨等について】

葛飾区 地域振興部 商工振興課 工業振興係 しんがい
TEL 03-3838-5587 (担当) 新谷

【調査票の記入方法等について】

(株)都市計画同人～調査委託先 みとま
TEL 03-3267-4159 (担当) 藤井 三苦

区内事業所調査票

(1) 貴事業所の名称、所在地、業種等について以下にご記入ください。

事業所名		(代表者氏名)
		(代表者年齢) 歳
事業所の所在地	葛飾区	(記入者氏名)
(電話番号)		(Emailアドレス)
(FAX番号)		(ホームページアドレス)
本社・支社別	1. 単独の事業所 2. 本社・本店・本社工場 3. 支社・支店・分工場	
主な業種 (1つだけ○)	<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block;">1. 製造業</div> 2. 建設業 3. 情報通信業 4. 商業他	
製造業のみ 具体的な業種 (1つだけ○)	1. 機械・機器部品 2. 金属製品 3. ゴム製品 4. プラスチック製品 5. 繊維・衣服関係 6. 印刷・製本 7. 紙製品 8. 木材・家具関係 9. 皮革製品 10. 飲食料品 11. その他	

(2) 貴事業所の従業者数 (※事業主、家族従業者、常雇、パートを含めて) についてお答えください。

 人

(3) 創業時期は？

1. 明治・大正 2. 昭和 () 年 3. 平成 () 年

(4) 貴事業所の主な事業内容は？ (具体的に記入)

(記入例) 工業用ネジ製造、プラスチック射出成形、 半導体製造装置製造、建設機械部 品切削・組立、金属製品メッキ、 金属プレス加工、製版、製本など	
---	--

(5) 貴社では自社製品やOEM製品をお持ちですか？ (1つだけ○)

1. 自社製品やOEM製品を持っている

2. 自社製品もOEM製品も持っていない

【※OEM製品とは、自社ブランドを伏せて相手先のブランドとして供給する製品のこと】

(6) 概して現在の経営状況は？ (1つだけ○)

1. 非常に順調 2. ほぼ順調 3. 横ばい 4. 不振 5. 非常に不振

(7) 新たに、区内に東京理科大学が進出することをご存知でしたか？ (1つだけ○)

1. 知っていた 2. 知らなかった

(8) 貴社ではこれまで、大学（区外を含めて）との「産学連携」の経験がありますか？ (1つだけ○)

1. ある 2. ない

→ (8-1) その内容は？ (該当するもの全てに○)

1. 共同研究 2. 研究や試験の依頼 3. 技術等の相談・指導
4. インターンシップ 5. 大学生との交流活動 6. 学会や研究会での交流
7. 社内にOBがいて交流がある 8. 以前から大学教授等と親しく交流がある
9. 大学の臨時講師を引き受けた 10. 大学が使用する試験機器等の製造を受託
11. その他 ()

→ (8-2) 差し支えなければ、相手先の大学名、研究科名などをご記入ください。

[Empty box for university name and department]

(9) 東京理科大学との「産学連携」について関心がありますか？ (1つだけ○)

1. ある 2. ない

→ (9-3) その理由は？ (該当するもの全てに○)

1. その必要がない
2. やり方がわからない
3. 大学とのルートがない
4. 連携の費用が心配
5. その他 ()

→ (9-1) 何か気掛かりな点は？ (該当するもの全てに○)

1. やり方がわからない
2. 大学とのルートがない
3. 連携の費用が心配
4. その他 ()
5. とくにない

→ (9-2) 東京理科大学との連携に望むことは？ (該当するもの全てに○)

1. 共同研究 2. 研究や試験の依頼 3. 技術等の相談・指導
4. インターンシップ 5. 大学生との交流 6. 研究会等での交流
7. 大学保有機器の利用 8. 大学施設の利用 9. 研究者等の情報提供
10. 企業向け公開講座 11. 大学が使用する試験機器等の製造受託
12. その他 ()

東京理科大学研究室アンケート調査結果

1 調査概要

○調査方法

東京理科大学科学技術交流センターによる配布・郵送回収によるアンケート調査。

○調査対象

東京理科大学全キャンパスのすべての研究室。

○調査内容

研究室の概要（所属学部学科、キャンパス名等）、産学連携の頻度、希望する産学連携の内容、葛飾区に対する知識、区内工場見学会に対する関心と意向、研究室見学受け入れの可能性と条件、葛飾区における産学連携に関する意見やアドバイス 詳細は、別紙調査票を参照。

○調査期間

平成23年8月上旬～9月下旬。

○調査票回収結果

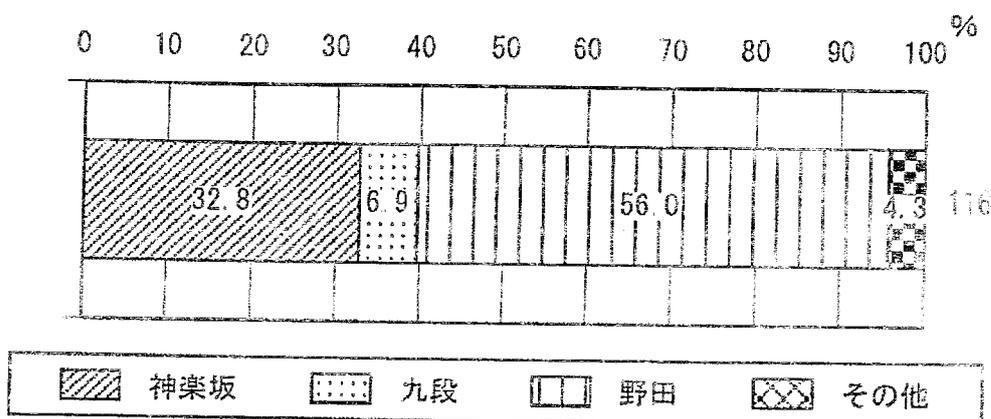
調査対象数 (A)	調査対象外 (B)	有効対象数 (C=A-B)	有効回収数 (D)	有効回収率 (D/C*100)
529	0	529	116	21.9%

2 全専業所調査結果

■研究室の所在キャンパス

☆回答研究室の所在キャンパスの構成は、「野田」(56.9%)、「神楽坂」(32.8%)、「九段」(6.9%)、「その他」(4.3%)となっている。

研究室所在キャンパス

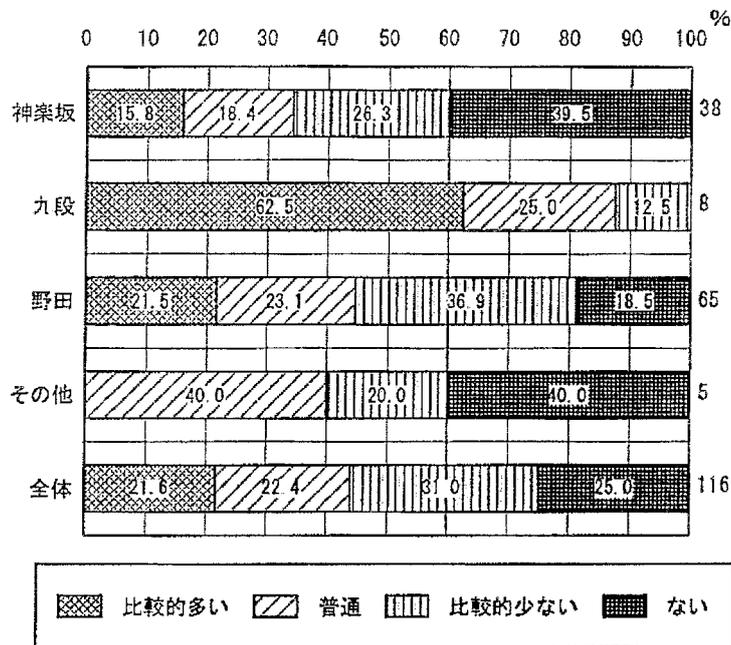


■「産学連携」の頻度

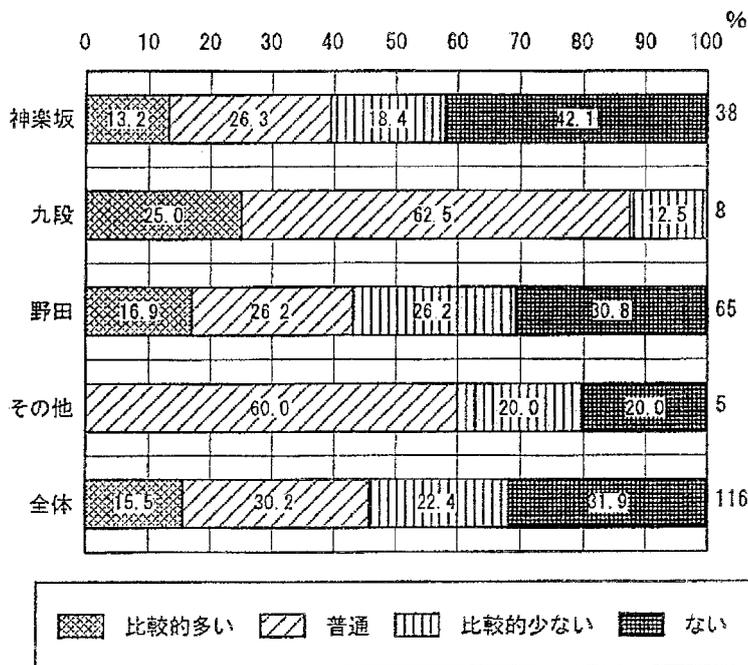
☆「共同研究・依頼研究」については、「比較的多い」が21.6%、「普通」が22.4%となっており、半数近くが普通以上に共同研究や依頼研究を実施していることがうかがえる。キャンパス別では、野田キャンパスの方が神楽坂キャンパスよりも産学連携の頻度が若干多い傾向がみられる。

☆「技術等相談・指導」については、「比較的多い」が15.5%、「普通」が30.2%となっており、「共同研究・依頼研究」同様、半数近くが普通以上に実施していることがわかる。キャンパス別でも、「共同研究・依頼研究」同様傾向がうかがえる。

＜研究室所在キャンパス別集計＞
産学連携の頻度*共同研究・依頼研究

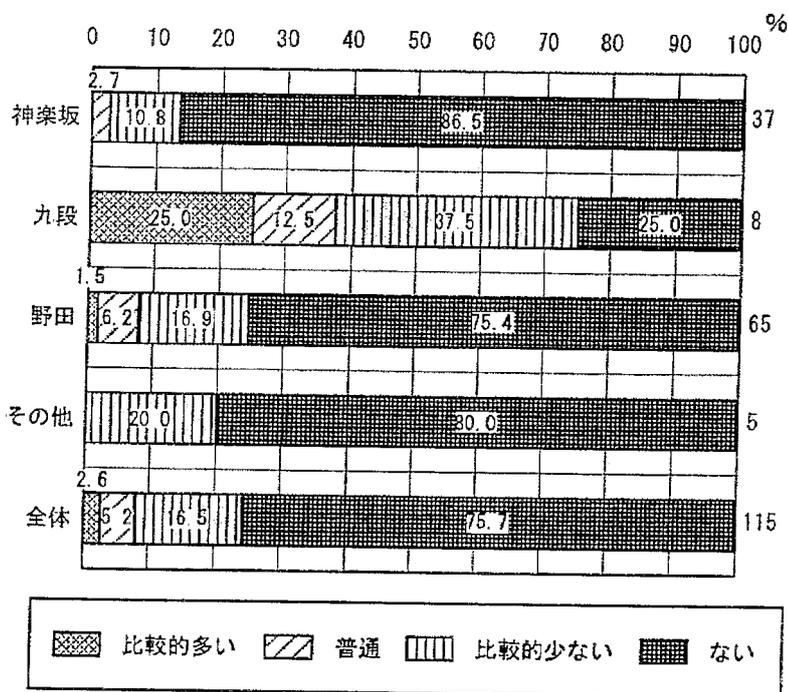


＜研究室所在キャンパス別集計＞
産学連携の頻度*技術等相談・指導

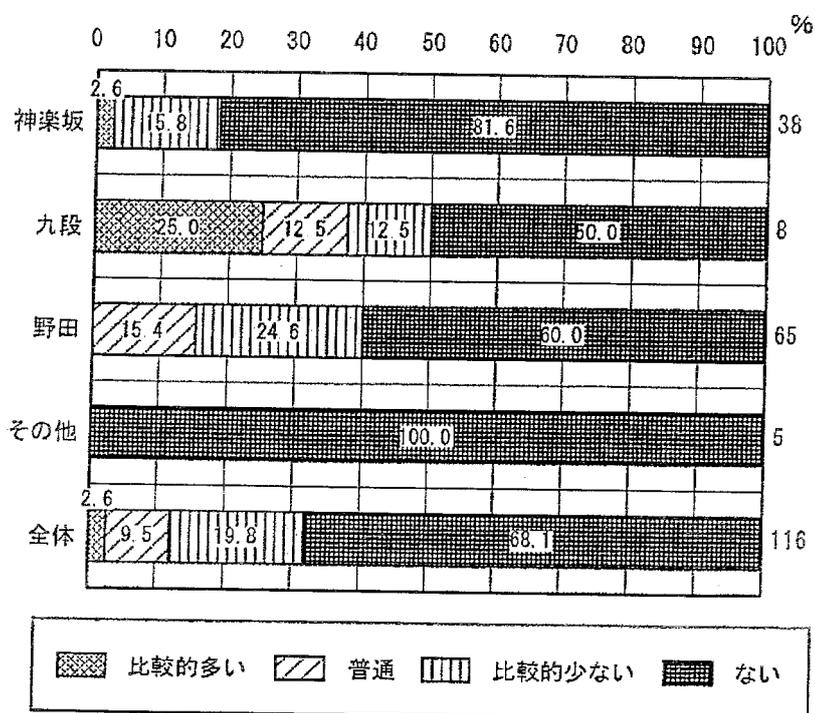


- ☆「試験機器等製造委託」については、「ない」が75.7%と大部分を占める一方、「比較的多い」が2.6%、「普通」が5.2%と普通以上に実施している層は1割にも満たない。キャンパス別では、野田キャンパスの方が神楽坂キャンパスよりも産学連携の頻度が若干多い傾向がみられる。
- ☆「インターンシップ」についても、「ない」が68.1%と大部分を占める一方、「比較的多い」が2.6%、「普通」が9.5%と普通以上に実施している層は1割程度と少ない。キャンパス別では、野田キャンパスで「普通」が15.4%を占めやや積極的な傾向がうかがえる。

＜研究室所在キャンパス別集計＞
産学連携の頻度*試験機器等製造委託

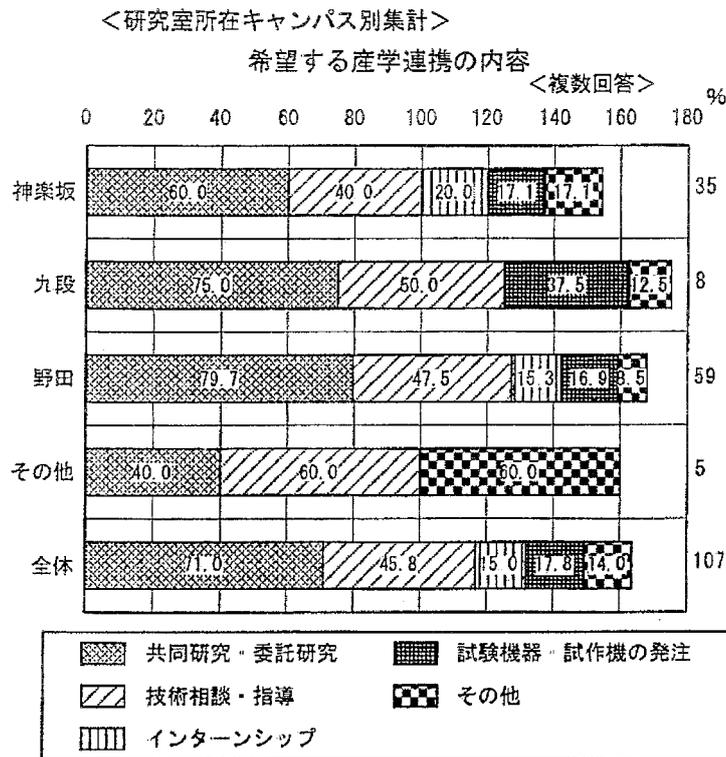


＜研究室所在キャンパス別集計＞
産学連携の頻度*インターンシップ



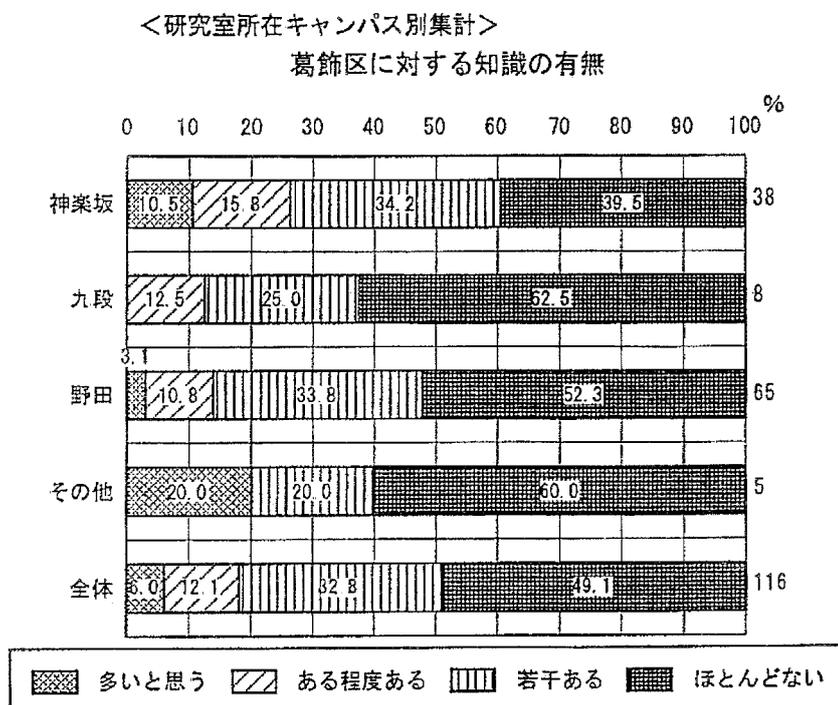
■希望する「産学連携」の内容

☆「共同研究・委託研究」(71.0%)が最も多く、次いで「技術相談・指導」(45.8%)、「試験機器・試作機の発注」(17.8%)、「インターンシップ」(10.3%)となっている。キャンパス別では、神楽坂キャンパスで「インターンシップ」が20.0%と他キャンパスに比較して若干多くなっているのが特徴的である。



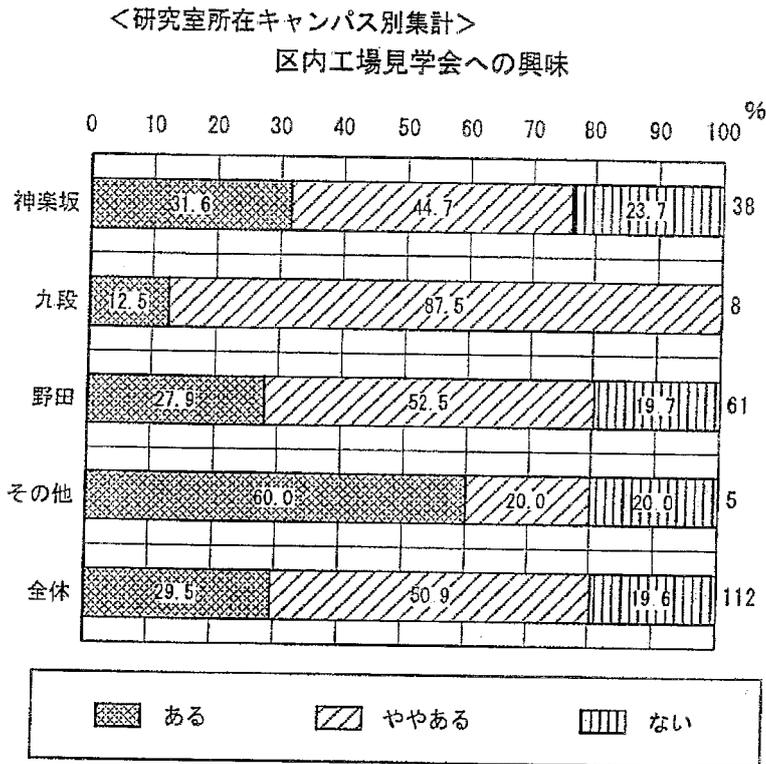
■葛飾区に対する知識の有無

☆「多いと思う」が6.00%、「ある程度ある」が12.1%、「若干ある」が32.8%、「ほとんどない」が49.1%となっており、葛飾区に対する知識がある程度以上ある層は、全体の2割程度にとどまっている。キャンパス別では、野田よりも神楽坂の方が知識のある層が多い傾向がみられる。



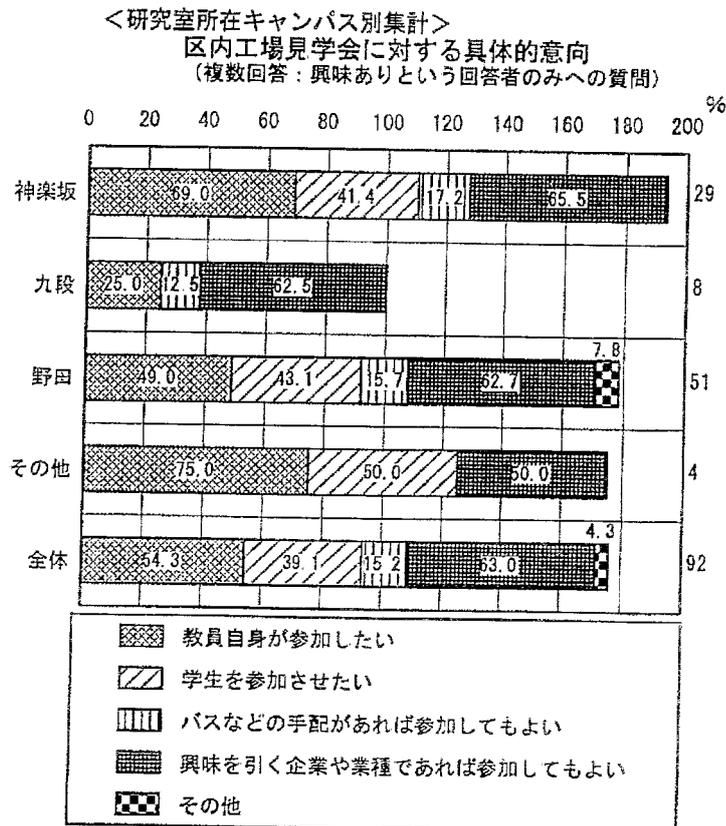
■区内工場見学会への興味

☆「ある」(29.5%)、「ややある」(50.9%) 合わせて。約8割が区内工場見学会への興味を示している。



■区内工場見学会への具体的な意向

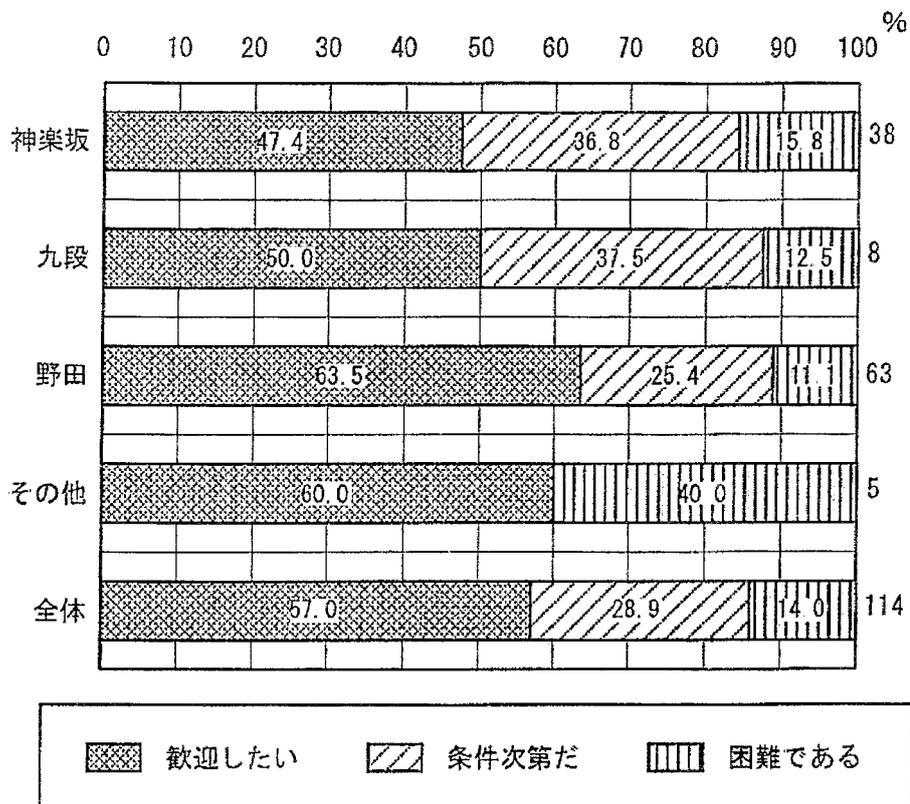
☆「興味を引く企業や業種であれば参加してもよい」が63.5%と最も多く、「教員自身が参加したい」(54.3%)、「学生を参加させたい」(39.1%)と続く。キャンパス別では、神楽坂で教員自身の参加意向が69.0%と非常に高くなっている。



■区内企業の研究室見学受け入れについて

☆「歓迎したい」が57.0%、「条件次第だ」が28.9%となっており、全体の85.9%が受入れ可能性のあることを示す結果となっている。キャンパス別では、野田キャンパスで「歓迎したい」が63.5%と他キャンパス以上に歓迎傾向が強い。

＜研究室所在キャンパス別集計＞
区内企業の研究室見学受け入れについて



「条件次第で研究室見学受け入れ可能」という回答の条件の内容（フリーアンサー）

<時期・日程・人数等の条件>

時間があれば。/見学のスケジュール/時期や時間に依る。/時期や回数などが調整可能であること。/業種、日時、人数等/時間的に都合がつくときであれば対応可能。人数にもよります。/時間があれば。/日程および発展性/時間を特定できること。/日程調整と人数です。1度に数名ならば可。/年に一回くらいで時期を設定できるのであれば可能。/1日に5~10名程度。研究の説明は1時間くらいで研究室内は30分くらいならできます。他の研究室も見学希望される方もいらっしゃると思われまので、薬学部のイベントとして「見学ツアー」的なスケジュールを組んでもらったほうがよろしいかもしれません。

<見学目的について>

(研究室見学受け入れ意向に関する設問の選択肢) 1.5 くらいの気持ちですが、漠然とではなく目的をはっきりとしていただきたく思います。/物見遊山でなければ受け入れます。/不特定の企業ではなく、ある程度、仕事の内容がかみ合う企業に絞ったうえで受け入れたい。/何を目的とした見学かによる。(当研究室への見学はさしてメリットがないと思いますので) /『何を知りたいのか』がわかるようにして欲しい。

<研究室の内容について>

産業とはほとんど無関係の書籍と計算サーバのみでよろしければ。/研究室のテーマがシステム研究・社会モデル開発のため見学してもPCが並んでいるのみで、あまり見学者に有益とは思わない。/本研究室の研究が基礎研究であることをご理解の上での見学ならばOK。/物質の性質、その中で動き回る電子の運動の特徴から理解する研究をしている。すぐに役立ったり、利用できたりするのは稀である。それを覚悟で話に来られるのであれば歓迎します。/目に見えるH/W等はない。/基本的には歓迎したいが、見学していただくものが研究室内にほとんどない。/お見せするようなものもありませんが見学者の目的にかなえば、歓迎します。/施設、設備は見学するまでもない。一般的なものしかありません。研究内容は見学してもらってもわかるものではありません。研究の実験には通常数日以上かかりますし、見てすぐわかるような結果とは性質が異なりますので。/特に条件を付けるわけではありませんが、あまりお見せするものもなく、がっかりさせるといけないので。/見るべきものはないですが/実験室があれば話は別だが、特にお見せする研究施設はありません。/理論研究室で、また教育を主としているので、内容を一緒に検討したうえで、来ていただくのが良いと思います。/実験系ではないので見学するところがない。/私の専門は経営戦略、商品開発、マーケティング、技術経営に関する部門であり、技術を直接開発する理工系の研究室ではありません。従って、経営に関する事業戦略や開発技術の商品化などの考え方についてであればご協力できるかもしれません。/私の研究室では知財の法律論なので企業の方にはあまり興味がわかないのではないかと思います。

<秘密保持について>

他の企業のノウハウがあります。場合によっては秘密保持契約も必要となる場合があります。/未発表データにして守秘義務を守っていただきたい。

<その他>

事前の詳細な打ち合わせ 事後のフィードバック。

葛飾区の産学連携に関する意見・アドバイス等（フリーアンサー）

<産学連携への期待>

- ・大変良いことと存じ、さらに進めて行きたいと存じて居ります。
- ・平成25年度に開学予定の葛飾キャンパスにおいて、規模の大小を問わず産学両者が有意義な共同研究や技術相談・指導ができる体制づくりや企業側への情報提供をお願いできれば幸いです。よろしく願い申し上げます。
- ・研究—産業、どちらも活性化されるということが重要です。薬学部は医療関連の産業との連携が中心になると思います。実際に共同研究を始める前に、理科大の研究の紹介と葛飾区の産業の紹介をセミナー（シンポジウム）として行い、理解をお互いに深めておくことが必要かもしれません。大きな発展につながるかもしれないので、一つの会社と一つの研究室としてではなく、理科大—葛飾区産業という形で展開していくのが理想的に思われます。（特許などの知的財産等についても議論を交わしておくことも必要かと思われます。）
- ・我々の研究テーマとマッチする企業は少なくないと思いますが、可能性があるならば積極的に共同研究などを推進したいと考えて居ります。
- ・研究室に配属された学生や院生が、具体的な出口の見える研究に少しでも関与することによって、研究に対するモチベーションの向上につながることを期待しております。また、将来の進路についても、大企業ばかりでなく、日本を支える中小企業の魅力を肌で味わうことによって選択肢の内に加わることを期待しております。
- ・今年4月に立ち上がったばかりの研究室なので、研究自体も、萌芽の時期になります。企業側の大学での研究に対する要望や価値観の違いなど、機会があれば聞かせていただきたいと思っております。
- ・私の研究内容ではすぐに産業に結びつけることは難しいと考えていますが、何らかの形で協力が出来ればと思っています。また、逆に私の知らない技術をお目にかかることで、研究に役立てることが出来れば嬉しく思います。
- ・東京に拠点を置く多くの大学研究室では、行政と協力する場合も、国や都が多くの場合対象となり、区レベルでの相談は少ない。建築の研究分野では街造りなどの面で協力できる可能性は大きい。私の研究室では公立学校の室内環境調査を行っており、大学側からの区の行政などをお願いがあった場合など、好意的に対応していただくと助かります。
- ・街と大学が協働することは、学生にとってもよいことだと思います。とくに、街の子どもたちのために一緒に科学技術を伝えることが出来ればと思います。

<具体的なニーズに基づく連携への期待>

- ・ナノ・マイクロレベルの技術を持つ企業と連携できると良い。生物試料を持つ企業と連携できると良い。
- ・商品化を望んでいる製品がいくつかある。1. 自転車発電機（防災グッズとして 2. 健康増進用自転車発電機 3. 街灯用などのサボニウス風車風力発電機。以上の3点は是非商品化したい。
- ・細胞培養、組織培養等に使える材料、素材、あるいは小型機器など、私たちが欲しいものを作れるかどうか、それを相談できる窓口があれば大変助かります。

<自研究室の紹介と連携意向>

- ・通信ネットワークや電力システムなど、大規模なシステムの信頼性設計に携わってきました。(企業の研究所に25年間勤務しました)。専ら大企業で作る大規模システムが対象でしたが、工場等の生産現場における問題についても、機会があれば取り組んでいきたいと考えています。気軽に声をかけていただければと思います。
- ・私は生産管理、ロジスティクス分野を専門としております。葛飾区にある工場の生産性向上のために様々な提案をさせていただければ幸いです。調査や分析に学生を使うことを許していただければ、費用的にも安く、また、学生指導面でも有効な手段であると考えます。是非、お声をおかけください。
- ・中小規模の企業経営、特に製造業における技術経営、に関して我々の技術経営専攻の教員は様々なバックグラウンドや経験(実務、教育—研究両方)がありますので、お役にたてることがあると考えます。
- ・知財の専門家として、産学連携や中小企業のサポートができます。戸田市でも役員を務めています。"東京理科大学MIP平塚研究室知財クリニックプロジェクト"
- ・小生は国際火災科学研究科にも属していて、野田の実験施設などは見学したい企業が多いと思います。このアンケートが総研単独所属の教員にも配布されていることを望みます。
- ・葛飾キャンパスが開校されれば、全学的な産学連携が求められるでしょう。その際に知財に関連したサポートが可能かと思えます。
- ・実際に実用化を目指した研究ならば歓迎したいです。(大学研究者による単なるお墨付きを与えるだけならば協力はできません)
- ・薬剤師を養成する役割があるので、区内の医療施設の見学、臨床実習が実施できたらと思う。また、区内の製薬会社の工場見学、技術的な相談を受けていただけたらと思います。よろしく願います。
- ・装置の試作や、試験協力などで、気軽にお願いできる中小企業と連携したい。また、先端技術ではなく、現在技術の向上などの相談にも積極的に対応しますので、遠慮なく訪ねてください。
- ・私の研究室は主に数学(代数学)についての研究を行っており、情報通信技術の基礎部分を担っておりますが、直接的に生産現場で使われるものではありません。そのため、いわゆる「即物的な」技術協力等は行えませんが、数学が基礎理論として用いられている技術(情報通信や金融等)について、数学部分でのレクチャーを行うことは可能です。
- ・当センターでは過去にベンチャー企業も共同開発を実施しております。光利用支援研究員も常駐しており、その他サポート体制も充実しています。見学等いつでも対応いたします。
- ・高分子材料の開発、評価など可能ですので是非利用してください。
- ・私は、機械要素の1つである転がり軸受の研究を行っております。メーカーに17年勤務しており、転がり軸受に関するトラブルについての相談は多数経験しております。軸受に関することであればお力添えできると存じます。
- ・野田キャンパスは広く設備等も充実しているので、葛飾キャンパスだけでなく野田キャンパスにもおかけ下さい。とくにバイオ等は野田キャンパスに集中しています。

<産学連携全般への提案>

- ・産学連携をうまく行うには、まずお互いを知ることが必要です。そのためには、見学会、交流会などの開催が考えられますが大々的に行うと、それが重荷となって返って没交渉となる場合も少なくないので注意が必要かと思えます。あまり気負わず地道に進めたほうが良いお付き合いができると思っています。実際に共同研究を行う場合には、場所や経費の確保が必要ですので、法人側の支援も必要です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

- ・私どもの学部は葛飾キャンパス構成メンバーです。特に材料工学科は多岐に亘る分野で構成されていますので、連携研究等も可能です。まずは、それぞれのニーズとニーズを照らし合わせるような会を持つ事が良いかと思えます。
- ・まずはスタートすることが肝要と考えています。
- ・研究開発だけでなく、活発な人的交流により大学の若い人材が葛飾区の企業で活躍するようになることが、長期的なメリットになると思えます。
- ・市町村によっては講習会を企画して中小企業の技術力の向上を図ったり、コンソーシアムを形成して産学連携の促進を図っているところもあるようです。
- ・産学連携について、大学教員は自分の研究から出たものを世に出して、世の中をひっくり返したいと思っています。現実には儲からないものがほとんどです。これに対して企業の要望は、ほんの数%でもよいから安く製造できないか、相反する性質をなんとかできないか、といった大学教員からすれば面白いものがほとんどです。このような中で、産学連携を真に意味するものにするには、コミュニケーションを活発にして、お互いの接点を見つけたことがまずは大事なことと思えます。
- ・葛飾区様の産業振興の御方針やその策定方針など伺うことができれば何か知恵が出るかもしれません。また、当技術経営大学院への区職員の方、あるいは区内企業の方のご派遣もご検討くださいますと幸いです。

<相互の情報公開・情報交換の必要性について>

- ・葛飾区にある企業名と企業側のニーズが明示されたリストがあれば良い。
- ・まずは具体的資料がないと興味を持てるかどうか不明。
- ・多数の企業や工場について、分野や業種が具体的に細分化された情報として、たとえばネットを利用してキーワード検索できると良いと思えます。研究を進める上で、こんなものがほしい、こんなものを作りたい、といった時に、簡単に調べられると大変ありがたいですし、強固で密接な連携関係を築く第一歩になると思えます。
- ・現時点では、相互の情報が不足していると思えますので、今後一般情報を相互にやり取りしながら、よく深く知りたくなった時の「入口」ができると良いと思えます。
- ・現在では知識不足（貴区の状況についても）ですので、特に述べられません。
- ・葛飾区の企業と企業が得意とする技術をまとめた冊子等があると良い。その他、公共的にアクセスできるWEBなどのアクセス情報もあると便利かと思えます。形式ではなく、実務的なプロジェクトを期待します。
- ・どのような企業があるのか。リストがあるといろいろと考えやすい。
- ・お互いを知ることが第一歩かと思えます。
- ・相互に情報交換を行い、お互いを知ることが必要と思えます。
- ・どのような業種が多いのか。このアンケートの際に資料が欲しい。
- ・積極的な情報公開、各企業の紹介などを充実して欲しい。

<講演等依頼・協力要請等受入れ>

- ・たまたま本年3月11日に発生した原発事故に伴う環境汚染の生体影響に関して、企業（会社）から要請があるときには講演を引き受けます。
- ・本学では総研フォーラム、シンポジウム、研究会など、研究発表と直接対話の機会が多いので、そのような場に来られると、よく状況やテーマが伝わると考える。
- ・研究対象が物作り（造り）ではないが、物作りの周辺で必要なインフラ、たとえばベンチャーファイナンスやリスク分析のような、ソフトインフラに区内経営者や企業（従業員）が関心を持っていただけるなら、その啓蒙活動に参加する意思と用意はある。
- ・葛飾区内にある工場の主要内容と、私の専門分野は若干異なるように思われますが、計測や研究開発で連携できることがあるようでしたら協力いたします。
- ・私はちょうど平成25年3月に専任の教授を終え、葛飾キャンパスに研究室を持ちません。非常勤として出入りすることはあると思います。20年ほど前、だいぶ先輩の教授が野田商工会議所と理科大の間で産学交流シンポジウムを始め、私もしばらくの間、大学側の責任者をしていました。今は科学技術交流センターが取り仕切っています。そういった形のお手伝いは出来るかも知れません。
- ・アンケートで想定されているのは、恐らく技術的な産学連携で、久喜キャンパスにある経営学部は、貴自治体におけるニーズを満たさないかも知れません。もし経営に関するニーズがあれば、お役に立てるかも知れません。
- ・何なりとご相談いただければ幸いです。

<専門分野との齟齬について>

- ・理論天体物理の研究質なので残念ながら民間企業との接点はないと思います。
- ・当研究室は基本的に理学的興味に基づく研究が主体です。あまり応用工学指向ではありません。
- ・大学院イノベーション研究科は技術経営を学んでもらっております。実験施設等見学に相応しい研究室ではないため、上記の回答（研究室見学は困難）となりました。教育の性格上、コンサルティング指導が最も適した連携の形と思います。

<その他>

- ・生まれ育ったところなので発展を期待します。
- ・当研究室はあと一年余りで閉じますので、前半の質問のみに答えさせていただきました。記入者は中学の途中まで金町に居りましたので、葛飾区は大変なつかしいところです。江戸川の土手から右手に見た「おぼけえんとつ」が今は左手に「スカイツリー」になっているのでしょうか。葛飾区の発展を願っております。
- ・現在、研究室内（野田キャンパス内）には、収納できないほどのナノインプリント装置などがあります。今は、外部に場所を借りて実験を行っておりますが、葛飾区内にも、同様のレンタルラボはありますでしょうか？あれば利用したいと考えています。よろしく願いいたします。
- ・未知なところがありますので、どうぞよろしく願いいたします。
- ・残り半年で定年となりますので、積極的な意見は書けませんでした。悪しからず。
- ・ドイツ語の研究室ですので、理系研究室のような形での産学連携、地域との協力は難しいのですが、異文化交流などの形で、地域の方々と連携する機会があれば、ぜひご一緒できればと思います。
- ・一般的に中小企業の人から意見を求められるが、殆どフィードバックがない。協力姿勢の第一歩を失っているケースが多い。

産学連携に関するアンケートのお願い

葛飾区では、平成 25 年 4 月に東京理科大学（葛飾キャンパス）が開設されることを踏まえ、東京理科大学との産学連携の可能性を検討しつつ、産学公連携事業を進めていきたいと考えております。

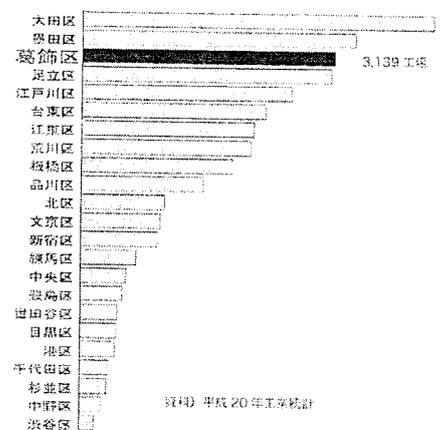
東京理科大学には優れた科学知識・技術の蓄積と研究体制があり、区内の大多数を占める中小企業との交流や技術連携など、東京理科大学との産学連携の方向は、葛飾区の産業振興にとって重要なテーマとなっております。

（ちなみに工業統計によりますと、葛飾区には 3,139 工場が立地し、これは都内第 3 位の工場数です。その特徴は、金属を始め、ゴム、プラスチック等々の多様な素材を高度な技術で加工する都内でも代表的な工業集積地域を形成しています。）

そのための第一歩として、現在、葛飾区内の企業に対して産学連携のニーズ調査を進めているところです。東京理科大学の研究者の方々におかれましても、そのご意向をおうかがいするため、勝手ながら添付の調査票を用意させて頂きました。

ご多忙のところ、まことに恐縮に存じますが、本調査の趣旨をご理解いただき、アンケート調査にご協力のほどよろしくお願い申し上げます。（ご回答いただいた内容については秘密を厳守し、この調査以外の目的には使用いたしません。）

東京 23 区の工場数 (合計 33,872 工場)



ご記入に当たって

1 アンケート票の返送方法

記入していただきましたアンケート票は、同封の返信用封筒に入れて、9月20日までに ご投函ください。（切手は不要です）

2 不明な点がございましたら、下記担当者までお問い合わせください。

葛飾区 地域振興部 商工振興課 工業振興係
TEL 03-3838-5587 (担当) 新谷 大久保

東京理科大学研究室調査票

(1) 貴研究室の概要について以下にご記入ください。

研究室名			
所属学部学科		キャンパス名	
(電話番号)		(Eメールアドレス)	
(代表者の氏名)		(記入者の氏名)	

(2) 貴研究室では、次に挙げるような「産学連携」の頻度はどのくらいでしょうか？
(各項目ごとに1つだけ○、大まかな印象でかまいません)

①共同研究や依頼研究等は	1. 比較的多い	2. 普通	3. 比較的小さい	4. ない
②技術等の相談・指導は	1. 比較的多い	2. 普通	3. 比較的小さい	4. ない
③インターンシップは	1. 比較的多い	2. 普通	3. 比較的小さい	4. ない
④試験機器等の製造委託は	1. 比較的多い	2. 普通	3. 比較的小さい	4. ない

(2-1) 特にどのような「産学連携」を希望されますか？ (該当するものに○)

1. 共同研究・委託研究	2. 技術相談・指導	3. インターンシップ
4. 試験機器・試作器の発注	5. その他 ()	

(3) 葛飾区についての知識はお持ちでしょうか？ (1つだけ○)

1. 多いと思う	2. ある程度ある	3. 若干ある	4. ほとんどない
----------	-----------	---------	-----------

(4) 葛飾区では、研究室の方々に、区内の優秀な工場をつぶさに見てもらい見学会を催したいと考えております。そのような見学会に興味がおありですか？ (1つだけ○)

1. ある	2. ややある	3. ない
-------	---------	-------

→ (4-1) 具体的な意向としては？ (該当するものいくつかでも○)

1. 教員自身が参加したい	2. 学生を参加させたい
3. バスなどの手配があれば参加してもよい	
4. 興味を引く企業や業種であれば参加してもよい	
5. その他 ()	

— 裏面も記入をお願いします —

(5) (4)の質問とは逆に、葛飾区の企業者が貴研究室の見学を希望した場合、受け入れることは可能でしょうか？(1つだけ○)

1. 歓迎したい	<input checked="" type="radio"/> 2. 条件次第だ	3. 困難である
----------	---	----------

→ (5-1) その条件とはどのようなことでしょうか？ 具体的に記入して頂ければ幸甚です。

(6) 最後に、葛飾区における産学連携に関して、ご意見・アドバイス等がございましたら、どのようなことでも構いませんのでご記入ください。

— ご協力ありがとうございました。 —

